

## シニアクラブ浜松市

○総人口 802,728人      ○65歳以上人口 218,947人      ○高齢化率 27.3%  
○シニアクラブ会員数 22,104人      ○シニアクラブ加入率 10.1%

### ～新津地区連合会の活動～

#### 《概況》

##### ○安心・安全ネットワークの構築 第2弾

高齢者のみの世帯や独り住まいの高齢者を対象に家庭訪問を実施。その地域高齢者同士の絆を高め安心・安全ネットワークづくりを行う。新津地区の町別（8町）でシニアクラブの単位部会の役員と民生委員、自治会役員とでチームを作り、また、シニアクラブ3役で巡回しその実情を把握する。

##### 実施日程

8月 具体的スケジュールと内容の策定を行う

9月 地区自治会連合会、民生委員へ説明展開した

10月 自治会連合会へ展開を依頼するも協力を得られず、会員を通じて町民へ周知連絡を行う  
別紙8月1日発行回覧を新津地区12,000人約4,500世帯に配布

10月～3月

6か月間安否確認を行いながら該当者の訪問を実施。

200円程度のお菓子をもって二人一組で訪問し、“訪問相手の目線で世間話から笑顔で話を聴く”をモットーで実施

結果を帳票に（訪問面談報告書）に記帳し、下記の集計調査票に纏める。

・『町名 調査表（一人暮らしの家庭調査状況リストまとめ票）』

実施後、報告書を連合会長へ提出。

3月定例会で実施トライアルの意見交換会を行いまとめる。

3月までに報告書をまとめ下記部署へ報告できるようにする。

報告書作成予定3月中旬 提出先：地域、市、県

#### 《成果》

・各自治会、民生委員とシニアクラブ単位部会との交流が促進され、この活動の持つ意味がより理解いただける機会となりました。

2025年問題（75歳以上が4人に1人）という超高齢社会となり、高齢年金受給者1人を納税者1人がサポートしなければならない時代となります。更なる少子化は、8050,7040問題（80歳以上の要介護者を50歳代の独り暮らしの同居者が介護しながら親の年金で生活する状況。70歳代も40歳代の同居者が同様となる）等の地域社会を取り巻く環境が、益々厳しさを増す中で、介護制度が見直され介護度の低い高齢者は自宅近くの介護環境へ、また、高齢者を抱える夫婦は共働きのため朝晩は自宅におらず、取り残される高齢者や子供たちは、独りで自宅にいなければならない不安定な環境となります。

そこで今回提案するピアサポート（元気な高齢者が家庭訪問をして、ふれあいの中で安全な生活ができるようにする）で地域に即した助け合いシステムができることがさらに確信できました。

この活動を通して、新たに御本町、小沢渡町でのシニアクラブの発足が期待されます。

また、60歳～65歳の独り住まい者がいることも分かり、ある町では孤独死が発生していました。この世代は要注意世代です。

## 《今後の方針》

高齢者のみの世帯や独り住まいの高齢者を対象とした第2弾の家庭訪問を実施しました。

直接お会いして、お話を聴くと最初は戸惑っておられますが、こちらの訪問趣旨がわかると、だんだん笑顔で話してくださいます。地域高齢者同士の絆が回数を重ねるごとにより高まることが体験できました。

来年度は、訪問の回数をさらに増やし、安心・安全のネットワーク作りを進めていきます。

自治会単位（30分内の生活圏）の生活支援体制事業のサポートとしてシニアクラブが大切な役割となることが理解でき、“向う三軒両隣”体制に結びつくよう、青年部、婦人部、子ども会等との協働した活動を考えていきたいと思ひます。因みに「子ども見守りボランティア」（浜松市子ども安全ネットワーク推進事業）に参加、新津地区でシニアクラブとして32名登録しています。

また、シニアクラブ未加入者に対して各種健康寿命延伸をテーマとしたイベントで積極的に加入促進を行っていきます。

但し、各町の各種役員の温度差があることが問題点です。

## 【活動の様子】

# 全戸配布

令和元年8月1日

回 覧

シニアクラブ新津地区連合会  
会長 山本 悦久

各単位クラブ会長 松本 備六・増井 久・浅原 光栄・田中 利明・島山 政明・寺田 博男

**歳をかさねても安心安全な生活ができるネットワーク構築事業について**  
**安心・安全ネットワーク構築事業（2回目）**

今日シニアを取り巻く環境はご存知かと思ひますが8050問題・7040問題として厚労省より64歳未満40歳以上の親の年金を充てにして働かないでいる人が61.3千人、40歳未満には54万人、合計115万人以上と公表されています。更に、平成26年6月に介護保険法の改定「介護予防・日常生活支援総合事業（新総合事業）」として市町村事業となります。介護3以上でない施設入居ができず自宅介護中心で対応することになります。そこで地域の人が自分の地域をサポートしていき、歳をかさねても安心安全でくらせるような体制をつくる必要になってきました。（新・むこう三軒両隣で助け合っ）

この度、その体制を作るためのいろいろ問題と課題が発生してくることが予想されます。今年度も、県にて標記内容（地域支え合い推進事業）の検証を行い実施できる環境をみつけるための助成を受け延長することができました。高齢者のみの世帯や独り住まいの高齢者と同一敷地内で別居高齢者の実情調査を実施拡大する。会員からの聞き込み調査から入り対象者に家庭訪問を実施、その地域高齢者同士の絆を高め安心・安全なネットワークづくりを行う。当事者を当事者予備軍の人が見守りながら、当事者が必要としている支援部署に連絡を付けて安心安全に生活できる地域中心のシステムを構築したいと思ひます。町民の皆様のご協力をお願い致します。

**実施内容**

1. 高齢者の一人住まい又は夫婦二人住まいの家庭を訪問、巡回する。『昨年度実施済』で更に2世帯同一敷地内で生活している家族を追加実情調査する（自治会長と相談し、シニアクラブ2人で訪問する。）
2. 当事者の悩み、困っていることをきく。（調査表で継続訪問履歴を守秘義務厳守で行う。）
3. 当事者了解のもとで関係各部署へ橋渡す。
4. 更に半年間のデータを整理して必要箇所（市・県の長寿保険課等へ報告し、年度方針へ反映していきます）

2020.03.31  
シニアクラブ新津地区連合会

町 名 シニアクラブ新津地区連合会  
調 査 表 （一人暮らしの家庭調査状況リストまとめ票）  
歳をかさねても安心安全な生活ができるネットワーク構築事業について

内 容	内 容				
1	75歳以上で家に一人暮らし、町内に子供連がいない。( 人)				
2	75歳以上で家に一人暮らし、町内に子供連がいる。( 人)				
3	75歳以上で家に一人暮らし、新津地区内に子供連がいる。( 人)				
4	75歳以上で家に一人暮らし、新津地区以外に子供連がいる。( 人)				
5					

**参考 調査方法**

手順1 シニアクラブ定例会等で聞き込みを行う。(1回目)

手順2 標記情報を基に民生委員さんとお話して聞き込み追加(必須) (2回目)

手順3 さらに担当自治会長に聞き込みを行う。あれば追加(必須) (3回目)

町内の協力状況を把握する。しっかりと把握しておく。どの人に聞きかけるかを会員の中で話し合う。

手順4 シニア三役または協力者と2人で事前連絡後、訪問する。お菓子用意

ヒアサポートで(当事者が当事者を訪問同じ目標で)出来るところから行いましょう。まずやってみましょう。行動しているという人を見つけて、いろいろな話を聞かせてきます。いい事も嫌な事もメモ

訪問時、現在の実情を聴く。世間話から 津波等防災時の連絡は しまっている事、将来困りそうなこと等を……

協力度状況は	内 容	内 容
1	会員の人とお話しい状況	定例会で現在の状況を話し合い困った事があれば遠慮なくいってらう。
0	民生委員さんとおはなし状況	各町での温度差がある。(HSK-NSK+HK)良好、その他の町は協力でなかった。
3	自治会長関係者とお話し状況	新津連合会長(徳井さん)の協力を願いますも協力的でなかった。会員の中でチラシを各町民に配布を依頼して戴いた。
4	その他の人とお話し状況	(HSK-NSK+HK)良好、その他の町は協力でなかった。

# シニアクラブ新津地区連合会

集計調査結果表 (一人暮らしの家庭調査状況リストまとめ)

歳をかさねても安心安全な生活ができるネットワーク構築事業について

内 容	田尻町	倉松町	米津町	東新橋	西新橋	法枝町	堤町	延べ計
75歳以上で家に一人で住み、町内に子供達がいない。	3人 6回訪問	5人 6回訪問	4人 4回訪問	4人 8回訪問	2人 4回訪問	7人 3回訪問	2人 2回訪問	27人・ 33回訪問
75歳以上で家に一人住み、町内に子供達がいる。	2人 6回訪問	1人 3回訪問	2人 2回訪問		2人 4回訪問			7人・ 15回訪問
75歳以上で家に一人住み、新津地区内に子供達がいる。		2人 4回訪問		2人 4回訪問	2人 4回訪問			6人・ 12回訪問
75歳以上で家に一人住み、新津地区以外に子供達がいる。		6人 5回訪問	2人 2回訪問	2人 4回訪問			2人 2回訪問	12人・ 13回訪問
								52人 73回訪問
75歳以下で家に一人住む人	5人(令和2 年度下期孤 独死1名発 生)							

## 実施結果で解ったこと

1. 昼間は家族の訪問で良好である。夜間は独りで過ごす環境が発生する。要注意です。隣近所の連絡を取れるよう注意することが解った。
2. 60歳以上で75歳以下の一人住まいの当事者が5名いる町もありました。内の1人が孤独死(数日間気が付かない事象)していました。隣保の高齢者が合わせて注意して見守る必要を感じました。尚、高齢者当事者がきちんとした金銭感覚を身に付けて躓かないと親族に振り回される環境が大きくなる可能性がある。子ども等の直接財産管理が当事者にとって必ずしもよいとは限らない。
3. 調査は次年度以降も継続して実施する。後期高齢者の立場で検証して包括支援センター新津の担当者で連絡を取り合って進めていくこととする。各町の公民館をバリアフリー化してサロン活動を活発していくことが大切であることが解った。